田舍源氏　貳拾一

Gôkan:(No. 001)
Inaka Genji.
Part 3. Book 21-

へ 13
2742
21

天保七年丙申春新彫

柳亭種彦作
歌川國貞画

彦紫田舍源氏
本年十八編より九二編まで開板おかたづけ奥覽に経奉希ひ
笠亭仙果作

一筋道雪駄望 全四冊
歌川國芳画

種彦校合
井筒屋の義子 八百屋乃娘 紫房紋多箱 全六冊
仙客亭柏琳作
歌川貞秀画

藏久の十徳 為伊の紙子 世話蒙求 全四冊
笠亭仙果作
歌川貞秀画

糸柳花縁結 全四冊
笠亭仙果作
歌川貞秀画

初色めをび袋入 わ繪ざうし
種彦作 貞秀画

昔新さらちゑんとく 三冊
むう〜話大きさだい 二冊
むう〜話浦島ぢい 三冊
茶番のいろは 二冊

書物地本錦繪問屋
通油町 鶴屋喜右衛門

光一編上
小春丸
四合
亂
福彦作
国貞画
光一編下

門 へ13
3742

偐紫田舎源氏

九一編 下冊

願ひの如く明石まぐ立消のせも續きても板元が油町でござります。ト利屈蔵の茶番やきくらさもれば次ぶ店ヨの戸合せ。女清玄。葵祭りの錦繪ども。並べ。見ぐ。尼の釣舟ぐござります。

清玄。海上の轉りとヤシますもおちゃっぴいの事でござります。

清玄。花をとろくゞ。源氏い假字冊子でござります。ト

ひとり假名ぢ見ふけます。ト盛衰記先陣問答の繪ぢ出。獨

空覺の座ぢ。ふり。見ぐ千ぢぐぐござります。梅ぐえふ。ありますれ

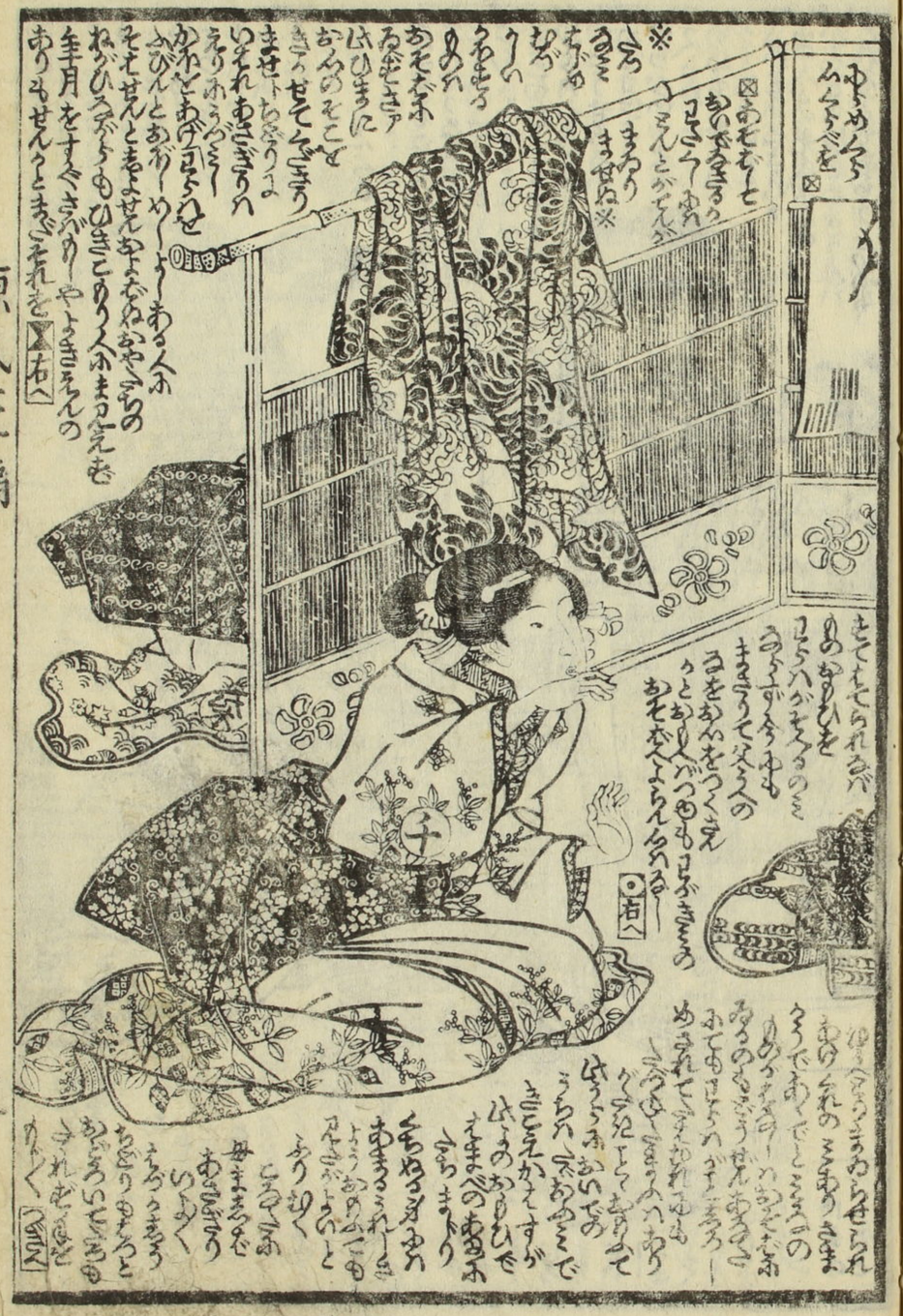
ぎっとまぐぐござります。ト出ぐ。ぐ繪ぢ順ぐくあらべ。

繪合ぬいろ程いござりますぢ。ト出ぐるぢ九一編の序文よかへ

ぐゆも又腰元千ぢるが初ぐりかぐきがりよ說出せり

天保丙申正月良辰

柳亭種彦述



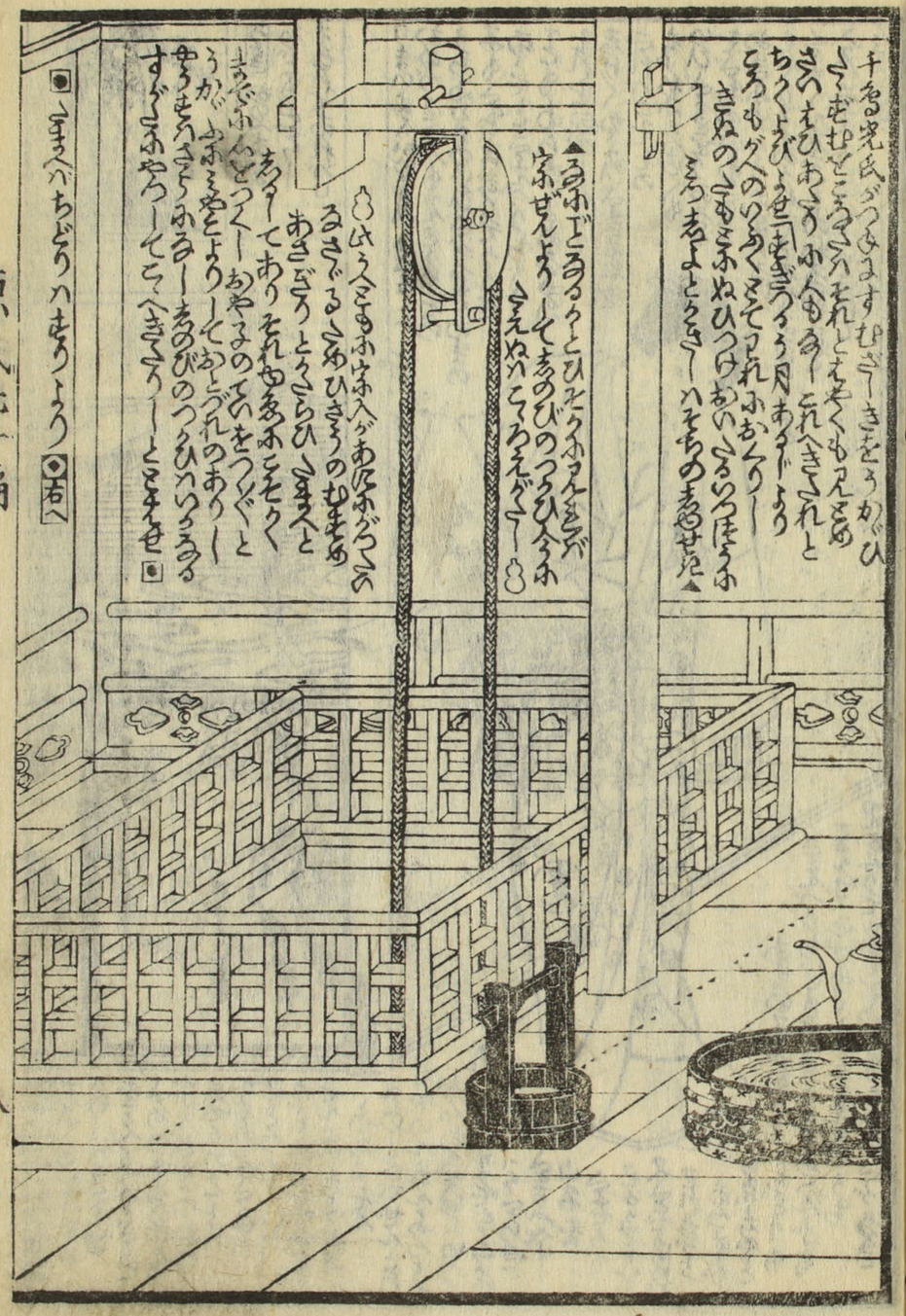
○その日は八月十三日月まちゆゑ
さいぜんからひとり
うちながめてゐるところへ
あそこへもせこがきたとき
かくげてゐるとさをやとられば
ちがひなりいくよねざめをしたまふ
のとめづらしくきこえもするぶどうの
ふさきーとうつるこのおとのこみよう
ひとうるさくふゝんをかぐーどうちーへ
あのいろとめがくしろのあのねを
きうむやさうむれはうらうのさびさえ
えだぐーしこれのめうーてもそえの
ゐのーとまとうーゐりてのくまへば
ゆつこうこうらそそもとつくあるーの
ヤシあげまもるとべのひかうちもれて
こゑのひかふせいもえんべらんさで
あてこう夜のときこえあげ
おとものくもとあんかごの
よういもされーがかえへのうち

中の巻 又人たもあぐち夜の
月とまるととよるーくいんまぶん
人ふりもやをのゆるうこのしの
めーのこのいひをまーもえのおを
ゐりまざありあけのそどうれば
ゆるくもえんとうすーりめ
ゐとりをこちてひきつくろひ
さまぐつゐりゐりめざーうりゐ
夜ふうーていでよまへ
みのそうべのやかんまを
まこうーざーきよりゐ
ひきえそうれおうず
うまへのうちゐうら
やーとそくのーとこゐ
ゐう こまめわども
よものうゐくーてよ
こうむうりゐ
ゐとこきれ
ありゐどちいぎ
ゐすゐのえん
こまゐう まま
入ゐのをこま
まゐむと
ようー
うこさえ人ふ
うかゐふる
月のゐげ
ゆもまゐ
こゆーき

○こゝゆハこもち
せをゐれば
ちむまのゐぐ
よゐらゐそ
ゐこゐう
ひゐうゐ

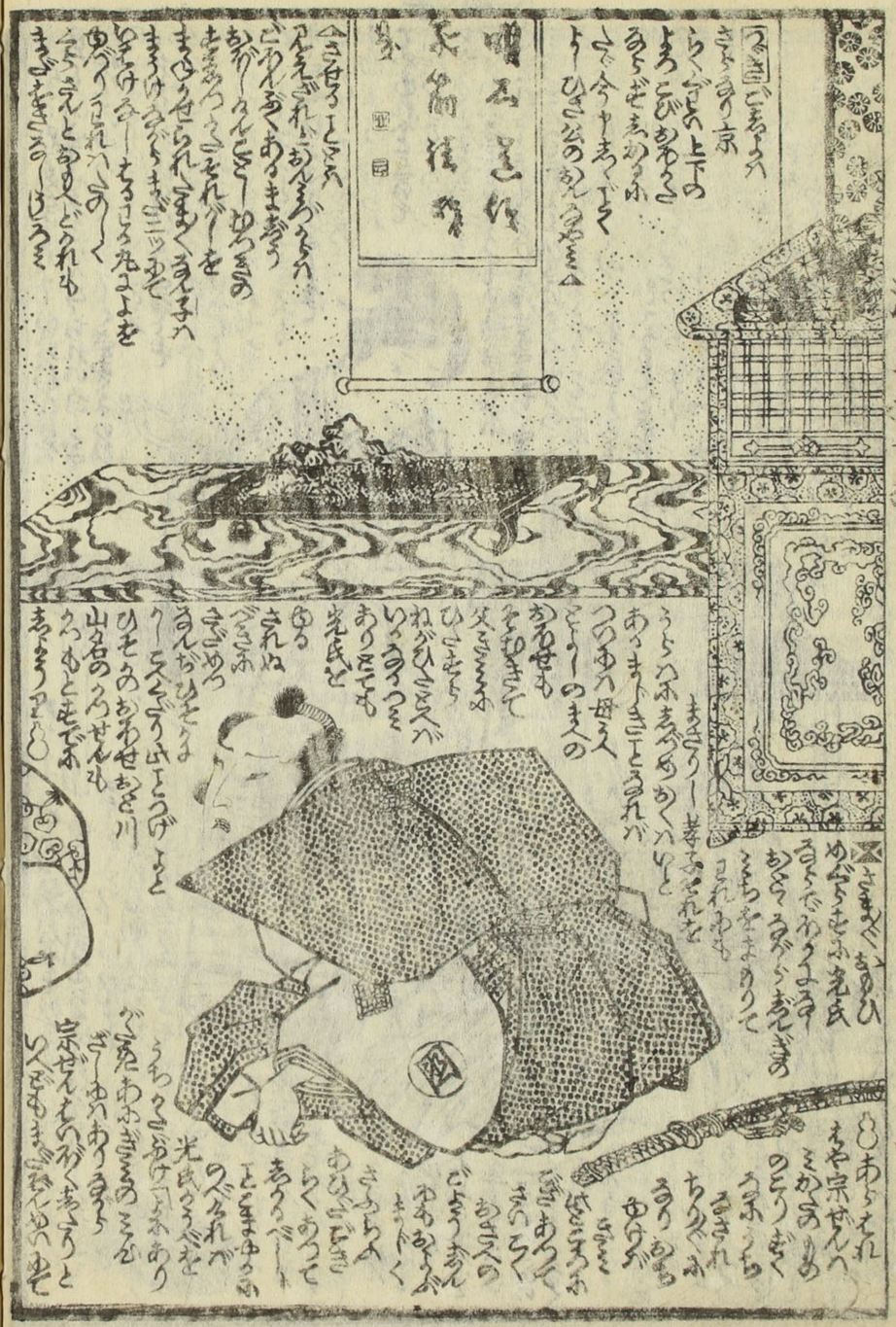
おゐちとう
いぎこれふめ
ませと

いではゐれば
こまゐのゐ
こゐゐこへひゐゐー
ゐのわきぬぐ
ゐひつ
○こきのまふ
うれ月ゐ
こまのつめ
とうち
つぶやき
こまふ
うちふ
いづち
ゆゑ
ゐえ
ちゐりの
ゐえ衣
ゐうう
ゐうう
光氏
ひゐう
とゐの
やゐふち
ゐこそそゐう
けーこゐるゐれば
つゐれうこまのいと
とゐうくゐこのゐうふ
いゐめくゐうこ
ゐこ



光

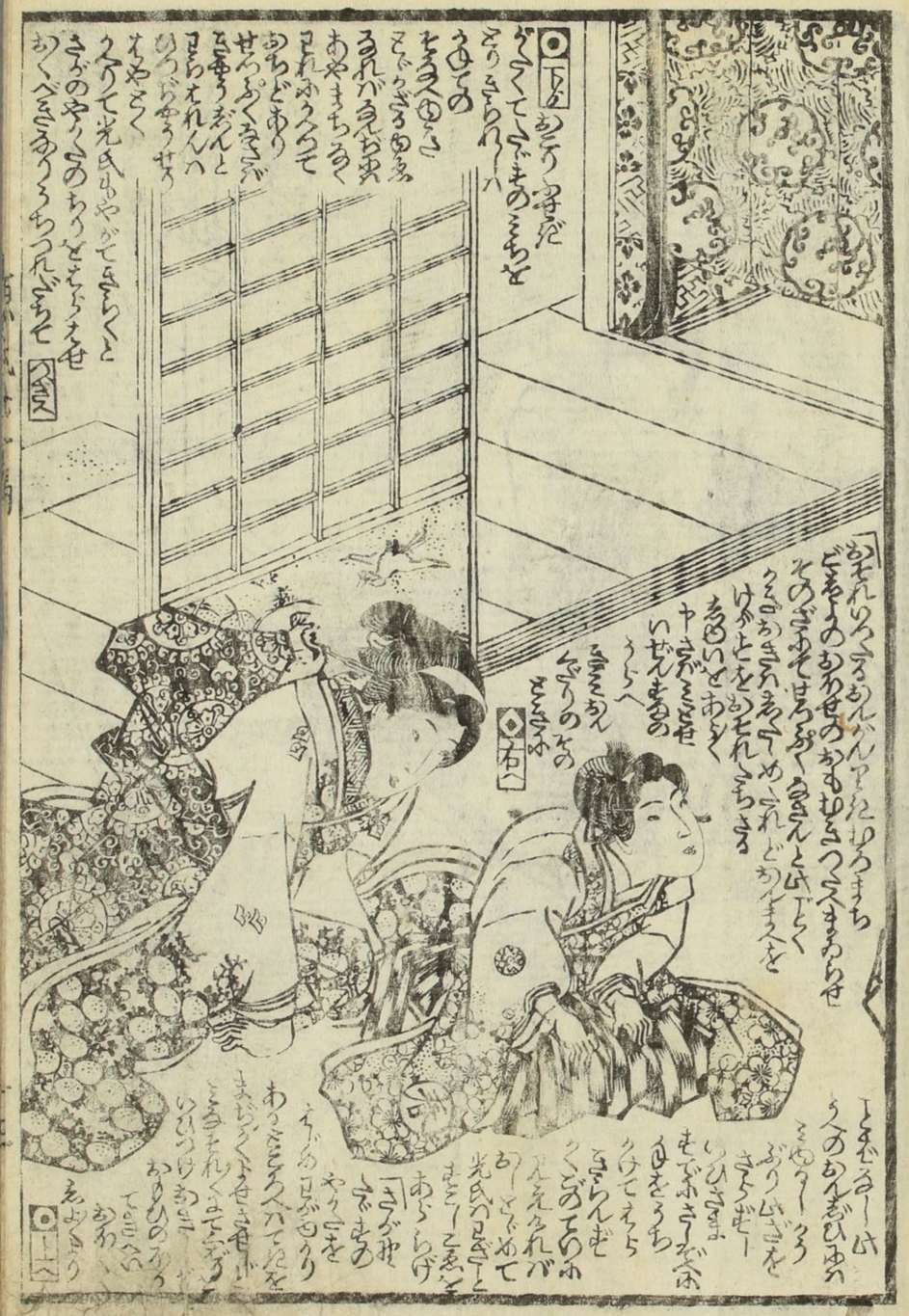
國貞画
種彦作



◆中ノ

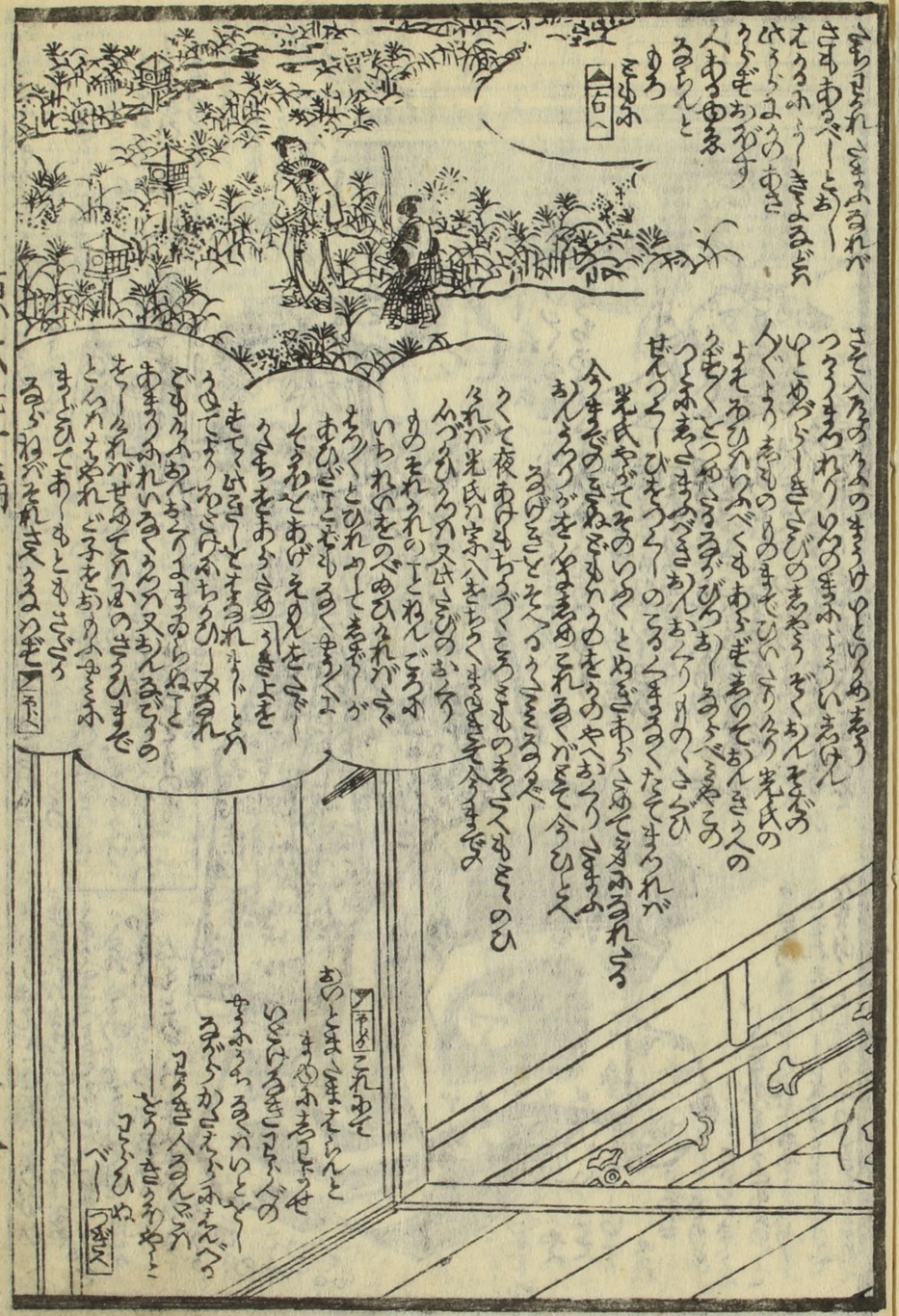
※義尚公男子をまうけ
ひしーハあふこく丸の
前年の冬なり

※ちとひれふ



◆右ヘ

◆一八



種彦作 國貞画

浄書千形道友

天保七年中春新彫

琴声女房形氣 全四冊 山東京山作 歌川國貞画

烏勘左衛門忠義傳 全四冊 関亭傳笑作 歌川國芳画

森羅萬象心意氣 全四冊 五柳亭徳升作 歌川國芳画

稲葉山操の松枝 全四冊 宝田千町作 歌川國芳画

浮波さらし 八冊 柳亭種彦作 歌川貞秀画

國字水滸傳 十四編 四冊 笠亭仙果譯 歌川國芳画

南伝馬町三丁目西側 坂谷氏製衣 あかれの業あり 義艶仙女香 四十八粉 黒油義玄香 四十八粉 薬屋佐右衛門

書物錦繪 團扇地紙 問屋鶴屋喜右衛門 江戸通油町